

博物館だより

第55号

2002. 3. 29

Nagano City Museum



▲写真① 木造大日如来坐像（長野市指定文化財）
像高95cm 小山和美氏（東京都）寄託



▲写真② わら馬 山本永雄氏（市内妻科）寄贈

今年も市民の財産・ 博物館資料が増えました！

新収蔵資料展開催！ 4月28日(日)～6月16日(日)

今年も市民のみなさんから多くの資料が博物館に寄贈・寄託されました。これを受けて博物館では新収蔵資料展を開催します。ここでは展示する資料の中から数点を取上げてご紹介します。

写真①は若槻東条旧円龍寺から寄託を受けた木造大日如来坐像です。頬の張りが大きく、胴の部分は細く、膝の張りが大きく高いのが特徴です。彫りが比較的浅く、おおまかなことから鎌倉時代末から室町時代の作とされています。

写真②は妻科の山本永雄さんから寄贈されたわら馬です。山本さんは県内各地のわら馬を調査、研究して、各地のわら馬をその地域の技法で忠実

に再現できるようになりました。寄贈された資料の中には今年度長野市の「選定保存技術」に指定された桐原のワラ馬（写真正面）も含まれています。県内のわら馬の中で桐原のわら馬は、製作行程がもっとも複雑だといわれています。

写真③は若穂川田の依田寿朗さんから寄贈された川田少年会の会誌『少年時代』です。川田少年会は大正元年（1912）4月、川田東光寺小野田亮舟住職が青少年の健全育成を願って発会しました。毎月1回学林寺（現川田公会堂）に集まり、習字、つづり方、俳句、短歌、絵画などを学びました。『少年時代』は会員の学習の成果を掲載、（次頁へ）

回覧する目的で毎年数冊発行され、今回は大正2年12月から昭和14年（1939）12月までの31冊が寄贈されました。初期の表紙は蚕卵紙の裏紙を使って題名と発行年月日を記すだけでしたが、号を追うごとご覧のように立派な作品が表紙を飾るようになりました。各時代の少年達の思いがつつられた貴重な資料です。

写真④は、浅川婦人会から寄贈された婚礼衣装です。この婚礼衣装は生活改善運動の一つとして、経費節約などを目的に会で購入したものです。購入費は会員が古着などを出しあい、換金して工面しました。その時の書類も残されています。最初の衣装購入以降、花嫁衣装は年々買い足し、昭和35、6年（1960、61）の頃には、それでも足りなく1日に何組もの人が同じ花嫁衣裳に袖を通し、時間貸しの状態だったといえます。結婚式の方法もここ数十年で大きく変わり、留め袖は平成12年（2000）まで、花嫁衣装はそれ以前から借りられることはなくなりました。今年3月、婦人会が解散するにあたり博物館に寄贈されました。

時代の変化が速い今日、いろいろなモノ（資料）が経験といっしょに失われています。モノだけを残すのではなく、モノと合わせてその使い方、利用のコツ、思い出、苦労話、笑い話なども博物館資料として残すことが重要と考えています。

展示ではここに紹介したもの以外にも様々な思い出のつまった資料を展示します。皆さんのお宅にある資料を永遠の思い出として残すため、また、

未来の市民の財産として活用してもらうために、資料の寄贈・寄託をお願いします。（降幡浩樹）



▲写真③ 川田少年会『少年時代』
依田寿朗氏（市内若穂川田）寄贈



◀写真④ 婚礼衣装
浅川婦人会寄贈

特別公開

長野市指定文化財 **五 鈷 鈴** 善光寺世尊院蔵
4月28日(日)～5月26日(日)

博物館では常設展示の充実と、文化財により親しんでいただこうと、年数回の特別公開を行っています。

今回は善光寺の世尊院に伝わる「五鈷鈴」を展示します。五鈷鈴とは密教の法要に使われ、台上に広げた曼茶羅の中央に置かれる重要な法具で、法要の最初と最後に振り鳴らし、その音によって眠っている仏心と呼び覚ます法具といわれています。精巧で力強いこの五鈷鈴は、鎌倉時代の作とされています。世尊院に伝えられ

た経過は不明ですが、中世の仏教法具として市の文化財に指定されています。（降幡浩樹）



▶五鈷鈴 世尊院蔵
全長16.6cm
口径7.4cm 銅製

これからの博物館の展望～ホップからステップへの飛躍に向けて～

◆開設20周年

昭和56年9月23日に産声をあげた当館は、平成13年9月で満20年となりました。当館はこれまで地域博物館として「地域に根ざす」ことを主眼に活動を続けてきました。地域の課題と向き合ってきた特別展、教室、講座、講演会、地域に出かけての天体観望会、移動展示など地域との関わりを大事にしてきました。

これまで博物館活動に無我夢中で携わってきましたが、20年が経過した現在、これまでの自己評価をしなければならないと考えています。

また、これまでに常設展示改装の計画を立案してきましたが、ハード面の整備改善を行うことも大事ですが、事業のあり方や運営などソフト面の整備や見直しを行うことで「博物館の使命」を再確認することがとりわけ重要になってくると思います。

◆事業をふり返る

これまでに数多くの事業を行ってきましたが、現段階でふり返ると一過性的な事業展開の傾向が多々あり、単なるイベントになっていたことが指摘されます。従って20年という歳月が必ずしも重層的に積み上がってこなかったということです。事業の目的、意味を再度問い直す必要があることを痛感しています。

◆利用の形態

開館間もない頃には、年間10万人近い来館者がありました。長野市には博物館施設がなかったため、好奇心による来館者が多かったと思われます。その好奇心、目新しさが薄れるにつれて減少の一途をたどっています。平成12年度の常設展示入館者は23,178人でした。

市民は特別展やおまつり等の開催時など非日常の場合にのみ博物館を利用し、日常的には利用しないという傾向がみられます。これは「展示がいつ行っても同じ。大胆な模様替えをして欲しい。」といったアンケートからも伺えます。日常的な利用の場を創出すれば、博物館の機能を主体的に発揮することができると思われます。

◆市民需要に応えてきたか

この20年の間に急速に多様化、高度化、個別化する市民需要に対し、博物館側の意識が対応して

こなかったと痛感しています。種々行ってきた事業が博物館のお仕着せではなかったか、「教育普及活動」という名目で市民を一方向的に教育対象としてみていなかったか、客体としての受け身の学習者に固定化していなかったかなど反省点が浮かび上がってきます。

実際に行う事業でも人の集まる事業と集まらない事業とに明確に分かれるという実態は、市民の期待に充分に応えていないということだと考えます。

社会的状況の中で市民需要に対しての博物館側の意識改革を行わなければなりません。

◆博物館の使命

博物館の活動はコレクション機能（資料収集、保管、調査研究）、サービス機能（展示、教育普及）に分けられますが、これまでは各機能を内的に完結させ、その情報を発信する装置として博物館を位置づけてきました。従って、その情報を展示や教室、講座等という形で公開を行ってきました。

産業優先の社会から生活優先の脱産業化の社会への流れは市民意識に大きな変換をもたらしました。さまざまな場面で市民参加、参画という形が実現してきています。

こうした市民意識の変化を的確に受け止め事業活動として展開していくことが博物館に求められている使命だと考えます。これまでの「堅苦しい、敷居が高い、日常生活から遊離している」といった博物館像を払拭する手立てにもなると言えます。

従って、資料収集や調査研究する楽しさ、展示する楽しさを市民とともに共有して、「市民とともに創る博物館」を新たに構築していきたいと考えています。プロセスを大事にし、プロセスから共有し、共に創り上げていくシステムを創ることで博物館の社会的存在意義が発揮できると思います。これまでの20年の活動は第1段階であったと位置づけられるでしょう。

市民の継続的な利用、日常的な利用を通して、知的探求心を育てていくことが市民文化の創造になると確信しています。また、博物館の活性化にもつながると思います。

新たな展望に向けての施策を次年度以降の活動で実行すべく準備をすすめています。（山口 明）

松代温泉で海水浴!?

——夏の特別展「日本海と信州の海」より①——

かつて長野県北部から中部に海が広がっていた時代がありました。しかし、その後の地殻変動によって、地形がすっかり変わってしまい、現在地形ありません。当時の海の様子は、地層や化石を調べることで間接的に知ることができます。博物館や自然史館の展示でも、当時の海について紹介されています。しかし、多くの方にとっては展示を見ても、「頭ではわかるけど、実感が…」というのが正直な気持ちだと思います。ところがなんと、当時の海水にどっぷりと浸かることができる場所があります。その場所は松代温泉です。

「温泉大国」日本には極めて多くの温泉があります。近年「同位体化学」という研究が進んで、温泉の水がどこから来ているかという「お湯の起源」がわかるようになりました。その結果、温泉の水の大半は地熱で加熱された地下水、つまり雨水起源であることがわかってきました。長野市周辺の温泉も、分析してみると大半が雨水起源です。しかし、松代地区の温泉だけは、「化石海水」と

地下水が混じり合った「化石海水型温泉」であることが判明したのです。

化石海水とは、大昔の海水が海底でたまった地層の隙間に閉じ込められたものです。ふつうは地下水で次第に薄められて消滅してしまうのですが、上下を透水性の小さい地層や岩盤に囲まれていたためにそのまま蓄えられていたのです。

松代温泉の泉質は食塩泉（塩化物泉）で、塩分の濃度が高いことが特徴です。しかし、海水のものの成分がそのまま保たれているわけではなく、海水と岩石の間で成分のやりとりが起こって、ただの海水から“温泉らしい”成分に変化しています。

松代温泉の周囲に連なる河東山地が海底だったのは約1600万年前から約1000万年前とされています。ということは、松代の温泉は約1000万年以上も前の海水ということになります。信州に確かに海があったことを実感するために、博物館の展示を見たあとに松代温泉に行ってみてはいかがでしょうか？

（畠山幸司）

◆◆◆ 寄贈・寄託・購入資料の紹介 ◆◆◆

平成13年度も多くの資料のご寄贈・ご寄託をいただきました。厚くお礼申し上げます。（敬称略・50音順）

☆寄贈資料

浅川婦人会（浅川）	婚礼衣装ほか
伊藤三亀造（鶴賀）	絣着物ほか
今村 勇（三輪）	こたつやぐら
大川成司（中越）	屏風
金子 宏（横町）	蓄音機ほか
北島昭江（川中島町）	食籠ほか
小林純一（三輪）	善光寺町之道法覚
近藤俊夫（松代町）	桐タンス
坂口秀男（松代町）	庚申講道具
笹山正友（松代町）	煙草入れ
澤 順子（吉田）	仏像
繁野光義（稲里町）	麻布ほか
島田親規（更埴市）	機織りの糸
高橋寅雄（稲里町）	幟
東 光 寺（若穂）	柱時計
中沢清子（稲里町）	手桶
中村哲夫（若穂）	お守り

永井幸彦（箱清水）	高札
法 学 寺（芋井）	お札
丸山 敏（真島町）	国史画帳大和桜
丸山昭男（愛知県）	典籍ほか
宮下芳江（松代町）	中嶋流砲術目録ほか
山口立雄（新諏訪町）	絵葉書ほか
山田昭治（小谷村）	九頭龍の抜け止めの杭
山本永雄（妻科）	わら馬ほか
依田寿朗（若穂）	町川田少年会資料ほか

☆寄託資料

小山和美（東京都）	旧円龍寺木造大日如来坐像
花井道子（神奈川県）	古文書
山本 彰（安茂里）	雛人形

☆購入資料

佐久間象山書簡
善光寺繁盛記 ほか